

pal*system

パルシステム埼玉



社会活動・環境レポート

CSR
REPORT
2020

報告書発行にあたって



生活協同組合パルシステム埼玉
理事長 樋口 民子

パルシステム埼玉は、食を中心とした商品の供給事業、共済・保険事業、電力事業を県内で展開し組合員のくらしと地域を支える生活協同組合です。この報告書は2020年度のパルシステム埼玉の事業と組合員活動を通じた社会活動を網羅しています。

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大で人と人との接触が制限され中止になった交流や活動が多くありました。そういう中でも、子ども食堂への青果寄贈やフードパントリーへの協力など、できることから地域の困窮問題への取り組みを重ねました。さらにオンラインによる産地交流や学習会など食の安全への学びを続けています。

2021年3月11日で東日本大震災から10年が経ち、大震災によるさまざまな経験から私たちは助け合い支え合って安心してらせる社会を目指してきました。しかし、この10年で貧困や格差の拡大と気候変動による自然災害など環境問題の深刻化で社会の課題は広がっています。また、コロナ禍で孤独が深まり社会的な分断も問題となっています。不安が広がる時代だからこそ、世界的な目標である持続可能な社会（SDGs）を目指し希望をつないでいくことが大切です。パルシステム埼玉は理念とミッションに基づき、地域のみなさまとも連携を図り、組合員や役員、産地やメーカーの方々と一緒に学び、考え、事業と活動で課題解決に取り組みます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

パルシステム埼玉とは

生活協同組合パルシステム埼玉は、埼玉県全域で事業と活動に取り組んでいます。

県内に配送センター8か所、組合員活動施設1か所を有しており、食の「安全・安心」と組合員一人ひとりの思いを大切に地域に根差した生協を目指しています。

地産地消、環境に配慮した環境保全型農業の推進など「食」と「農」を通じて、パルシステムならではのくらしに貢献する事業や活動をすすめていきます。

組織概要 (2021年3月末現在)

名称	パルシステム埼玉
設立	1951年5月
代表	理事長 樋口 民子
	専務理事 横山 博志
組合員数	215,044人
出資金	82.1億円
事業高	323.9億円
職員数	625人（うち正規職員115人）

INDEX

報告書発行にあたって……	2p	食育・農業……	13-15p
理念・ミッション……	3p	環境……	16-17p
事業……	4-5p	平和……	18-19p
特集……	6-7p	人材育成……	20p
くらし・まちづくり……	8-11p	内部統制……	21p
子育て……	12p	パルシステムの取り組み……	22-23p

理念

心豊かなくらしと共生の
社会を創ります

ミッション

互いに支え合って
安心してらせる埼玉を
つくります

2020年ビジョン

- ① 事業と活動を通じて、地域に助け合いの輪を広げます。
- ② 他団体や行政と力を合わせて、高齢者福祉、子育て支援を推進します。
- ③ 生産者と協同して、食の安全と日本の農業を守ります。
- ④ 環境負荷を削減し、持続可能な社会をつくります。
- ⑤ くらしの変化に合わせた事業改革を実現し、より安定した経営基盤をつくります。

消費者支援功労者表彰（ベストサポーター章）を受章

2020年4月、消費者庁より消費者利益の擁護・増進のために各方面で活躍している個人・団体を表彰する制度として消費者支援功労者表彰（ベストサポーター章）を受章しました。

パルシステム埼玉は、組合員が担うライフプラン・アドバイザー（LPA）による消費者に関わる課題についての学習会や、「くらしの相談ダイヤル」を活用した相談体制を整備したことが評価を受けました。



埼玉県健康経営実践事業所に認定

2020年10月、事業所における従業員等の健康に配慮した経営を促進している活動が認められ、健康経営に取り組む事業所・団体として「埼玉県健康経営実践事業所」に認定されました。





パルシステム埼玉の事業

供給事業

農薬や添加物にできるだけ頼らない商品や化学調味料不使用の加工品など、おいしく安全な商品を玄関先までお届けする生協の宅配事業です。暮らしに合わせて選べるカタログ「コトコト」「Kinari」のほか、カタログのお届けがないアプリ完結型「タベソダ」、カタログで選んだ商品をアプリから注文できる「ぼちパル」、注文した食材やお届け履歴が楽に管理できる「まめパル」など、スマートフォン向けサービスも充実し、県内8センターから埼玉全域、週11万人の組合員に配達しています。

また、10月から蕨センターと入間センターで直接商品を受け取る新サービス「ステーションパル」を開始しました。新しい利用方法として、今後も展開を広げていく予定です。



サービス事業

パルシステム埼玉オリジナルサービスのプリユ葬を取り扱う葬祭事業協同組合「埼玉こすもす」、「株式会社ティア」、「株式会社セレモニー」の3社が葬儀を施行しています。また、2019年度より遺品整理・福祉整理専門会社「あんしんネット（アールキューブ株式会社）」と提携し、不用品整理、遺品整理なども行なっています。

多様化する組合員のニーズに合ったサービスを提供し、組合員が安心してくらすよう、くらし全般をサポートしています。

共済

CO・OP共済は、入院・手術・けがなどを幅広くカバーした《たすけあい》を中心に、《あいぶらす》《ずっとあい》等、お手頃な掛金の保障で組合員のくらしをサポートします。ライフプラン活動等、多くの組合員にCO・OP共済を知っていただく活動を通じて「助け合い」の輪を広げています。



電力事業

電力自由化に伴い、2017年4月より、パルシステム埼玉でも電力をひとつの事業として「パルシステムでんき」を推進しています。原子力や化石燃料に頼らず、太陽光や水力、バイオマスなど自然の力を生かしたFIT電気（再生可能エネルギー）により得られた電力を中心に供給しています。



組合員活動施設「ぱる★てらす」



世代を超えたさまざまな人々が集う「コミュニティの中心・拠点」として、組合員はもとより地域の方にも広くご利用いただけるパルシステム埼玉の組合員活動施設。会議室や多目的室、調理室で学習会やイベントが開催されています。



親子ふれあいサロン

組合員活動施設「ぱる★てらす」では、毎週金曜日に、地域で子育て中の親子の交流の場として「親子ふれあいサロン」を開催しています。2020年3月から一時開催を中止しておりましたが、感染拡大防止対策を取り、時間を短縮して10月から再開しました。（緊急事態宣言期間中の1月29日(金)～3月21日(日)まで中止）ハロウィンやクリスマスのミニイベント、絵本の読み聞かせなど工夫を凝らした企画を行なっています。参加した子育て中の方向士の情報交換の場にもなっています。



事業所案内



- ① 本部・蕨センター
- ② 草加センター
- ③ 大宮センター
- ④ 白岡センター
- ⑤ 川越センター
- ⑥ 三芳センター
- ⑦ 入間センター
- ⑧ 熊谷センター
- ⑨ 組合員活動施設 ぱる★てらす



特集

オンライン企画



新たな組合員活動の開催方法を模索するため、オンライン配信形式での企画を始めました。使用するアプリであるZoom初心者に向けた使い方講座も大好評。参加者の関心の高さがうかがえました。



講師の映像を確認しながらの調理

手元カメラで映します



調理企画では必要な材料は参加者各自で準備し、ご自宅のキッチンとリモートで繋げて、進行状況を確認しながら調理しました。なかなか行くことができない遠方産地ともオンラインでつながり、交流を深めています。

開催場所まで遠い方や小さなお子さんを連れて企画に参加しづらい方などにとっても大きな可能性を広げたオンライン企画。今後も多くの方に開かれた組合員活動を目指していきます。



会場とオンラインの同時開催企画



産直産地の畑からの中継



オンラインフェスタ

3月24日(水)、「パルシステム埼玉オンラインフェスタ～つなげよう、つながろう～」を開催しました。

「商品紹介」「リモート講座」「料理講座」「産地ツアー」の4本柱で構成し、合計8講座をすべてオンラインで企画。

「なかなか産地へ行けない中、オンラインで様子を見られて良かった」「紹介された商品を購入してみます」など、参加組合員から好評の声が寄せられました。



You Tube

12月にパルシステム埼玉 公式YouTubeチャンネルを開設しました。

第1弾は県内産直産地である沃土会の『わくわくBOX』の紹介。動画では、わくわくBOXに詰められた生産者の思いやパルシステム埼玉職員と組合員へのインタビューも。



Twitter

10月からパルシステム埼玉公式Twitterを始めました。

アイコンは長瀬ライン下りのこんせんくん。配達情報、レシピ、イベント報告など最新情報をお届けしています。



特集

特集

困りごととは助け合い 体も心も休まる暮らしづくり



プチパントリー

さいたま市では5月29日(金)、埼玉県子ども食堂ネットワークが中心となり、子どものいる家庭に無料で食材を配る「ステイホーム応援プチパントリー」が行われました。学校の休業により活用できなかった食材など24トンを県内85か所ある支援団体を通じて必要とする家庭へ提供しました。パルシステムからはキャベツや玉ねぎなどの青果を提供したほか、パルシステム埼玉の職員が物資の仕分け作業などに協力しました。



青果の寄贈

2019年9月より食品ロスの削減と埼玉県内の子どもたちの豊かな成長を目指し、毎週月曜日に「一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク」と「埼玉県子ども食堂ネットワーク」へ青果を寄贈する取り組みを開始しました。寄贈される青果は、組合員に供給する青果で、事業上やむを得ず発生する予備青果が対象となり、学習教室や子ども食堂の食事に役立てられています。



にじいろフードパントリー

12月26日(土)、医療生協さいたま「老人保健施設みぬま」でにじいろフードパントリーが開催され、コロナ禍で困窮する方への支援活動に協力し、パルシステム埼玉から役職員と組合員が参加しました。

多くの食料品が必要となる年末年始に向けて、配達仕分けで発生する青果や加工品の予備品を提供しました。当日は提供した食材の仕分け、検温、受付など運営のお手伝いをしました。



医療生協さいたまへのお菓子の寄贈

新型コロナウイルス感染症の蔓延を受けて、医療・介護従事者は、感染リスクにさらされながらの業務が続いています。緊張感が続く業務の中、ホッと一息つける時間にお役立ていただけるよう、6月1日(月)、パルシステム埼玉は、医療・介護従事者への感謝を込めて、医療生協さいたま生活協同組合に総点数200点以上の菓子類を寄贈しました。



くらし、いきいきと

いきいきと誰もが安心して過ごせる社会のため、互いに支え合える地域社会づくりを目指しています。また、超高齢社会の問題に対しては、パルシステム埼玉独自の見守り活動など、生協ならではの地域に密着した取り組みを行なっています。

フードドライブ

フードドライブとは、家庭で余っている食品を回収し「フードバンク埼玉」を通じて福祉施設・支援団体などに寄付する活動です。

フードバンクは個人や企業から品質には問題がないのにも関わらず、廃棄されてしまう食品・食材を引き取り、必要としている福祉施設・団体等や困窮世帯へ無償で提供する活動及び団体を指します。この活動は、「貧困」課題だけでなく「食品ロス」の削減にもつながります。

パルシステム埼玉では商品展示会などの企画や配達時にフードドライブの協力を呼び掛けています。また、組合員活動施設「ぱる★てらす」では常時受付しています。集まった食品はフードバンク埼玉を通じて活用されます。



青空市

8つある配送センターでセンター祭り「青空市」を毎年開催しています。日頃お世話になっている組合員や地域のみなさんに感謝の気持ちを込めて、産直青果・人気商品の販売やじゃんけん大会など工夫を凝らした楽しい企画でもてなします。

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止しました。



インターンシップ

今年度の「つながりインターンシップ@協同2020年度」は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン形式で実施しました。生協の組合員活動や社会貢献活動に興味を持った学生が参加し、パルシステムグループ生協職員との座談会やインタビューを元に調査結果を報告書にまとめ、12月に報告会を開催しました。

パルシステム給付型奨学金

2020年1月から試験的に運用してきた「パルシステム給付型奨学金」を本格化し、2021年1月より組合員へ募金の呼びかけを始めました。学びの意欲を持ちながら世帯の経済的理由から進学・就学の継続が困難な若者に対して包括的に支援する学費助成制度です。募金は通年受付し、2021年4月以降、奨学生への返済不要の奨学金として、一部は奨学生の伴走支援者(生活・進路相談のほか、精神的サポートを行う)の事務経費に活用します。



見守り協定



2013年、高齢者の孤独死の防止を目的に、「配達の気づき」を形にして、組織全体で地域を支えるパルシステム埼玉の見守り活動が始まりました。

配達時に、お届けした荷物がそのままになっているなど、毎週訪問する配達担当が、異変を感じた場合に地域包括支援センターなどに連絡しています。

今年度は「春日部市高齢者虐待防止及び消費者安全確保等見守り支援ネットワーク」へ登録し、今後は虐待や徘徊を発見した時には「高齢者支援課」、消費者被害を発見した時には「消費生活センター」へ通報し、地域の見守りの充実を図ります。

2021年3月現在、57市町1団体と見守り事業の協定締結及び登録を行なっています。

いきいきネットワーク

「いきいきネットワーク」は互いに支え合って安心してらせる地域社会を目指し、地域のくらしの困りごとを援助する制度です。「困ったときはお互いさま」「わたしにできることなら…」という気持ちで、パルシステム埼玉の登録した組合員が応援活動に入ります。活動内容は家事援助（掃除、洗濯、買い物等）、子どもの送迎、病院の付き添いなど多岐に渡ります。



特定非営利活動法人セカンドリーグ埼玉

地域の課題解決に取り組む団体や個人を支援する目的で、パルシステム埼玉の協力により設立された特定非営利活動（NPO）法人です。地域の中での生活課題解決に向けさまざまな活動を行う市民団体等の中間支援活動、並びにハンズオン支援を行なっています。

フレイル予防講座

パルシステム埼玉では、医療生協さいたま生活協同組合との共催で定期的に学習会を開催し、地域にフレイル予防を呼びかけています。介護予防、処方薬と市販薬の違い、サプリメントの上手な使い方などさまざまなテーマで講座を開催しています。

特定非営利活動法人パープルネットさいたまとの協同事業

2017年度市民活動支援金助成団体の特定非営利活動法人パープルネットさいたまと協同で、CO・OP共済「地域ささえあい助成」の協賛を受け、「支援者養成基礎講座～DV被害をうけた女性と子どもに寄り添う～」の4日間連続講座を行いました。また、組合員活動施設「ぱる★てらす」では気軽にDVについて考える場とし、「支援者カフェ」も開催しています。

被災地視察

東日本大震災の被災地を実際に訪れる「南三陸スタディツアー」は、震災によって何が起り今はどうなっているのか、参加者の目や耳を通して、直に感じ取ってもらおうと毎年実施しています。

9月26日（土）～27日（日）、震災から10年の節目を前に宮城県南三陸町の被災地視察を行い、役職員14人が参加しました。震災からの復旧の様子や復興への歩みを見て、知って、考えるとともに、震災の体験や教訓から今後の防災の知恵を学ぶ場にもなっています。



パルシステム共済連たすけあい活動助成金企画

パルシステム共済連はCO・OP共済《たすけあい》の加入者からお預かりした「共済掛金」から、ケガや病気の際にお支払いする共済金や事業経費を差し引いた「剰余金」の一部を活用し、よりよい地域社会の構築に向けて、組合員が自主的に行う子育て支援や福祉助け合い活動、ライフプランニング活動、健康維持活動を助成という形でサポートしています。パルシステム埼玉ではこの助成金を受け、講演会や学習会などの企画を開催しています。

市民活動支援金

パルシステム埼玉市民活動支援金は、福祉、環境、まちづくり等をテーマに特定非営利活動（NPO）法人やボランティア等が担うさまざまな市民活動に対し、地域社会貢献活動の一環として、資金面で支援する制度です。市民活動支援金運営委員会による選考の結果、7団体に総額250万円を助成しました。

災害に備えて

2019年度に吉見町と「災害時における生活物資の供給協力に関する協定」を締結しました。

東日本大震災復興支援助成金



パルシステム埼玉東日本大震災復興支援助成金は、東日本大震災による被災地及び被災者への支援を行う団体に対し、パルシステム埼玉が社会貢献活動の一環として資金面で支援していく制度で、2015年に始まりました。組合員を交えた運営委員会による審査と選考を経て、2団体へ総額68万6,200円を助成しました。